

「つながる・ひろがる神奈川」

Lib 活「県民が編むかながわの半世紀」第3期 チームB

1. 「県民が編む」それぞれの思い

私たちは、「県民が編む」という視点を大切にしたい。

第一に、**生まれ育った土地への愛着**という視点である。故郷での経験から歴史ある地名がどのように受け継がれまた変遷するのか、思いの深い隣接地域から見てこの神奈川はどのように見ることができるかということ、この地域で生まれ育った自分史からこの地域の移り変わりをたどりなおして見るということである。

第二に、**日常を通じた地域とのつながり**という視点である。地域の学びへの参加、余暇や健康づくり、娯楽や交流、買い物など生活の中での主体的な関わりから、地域や地区、施設などの成り立ちを見直してみるということである。

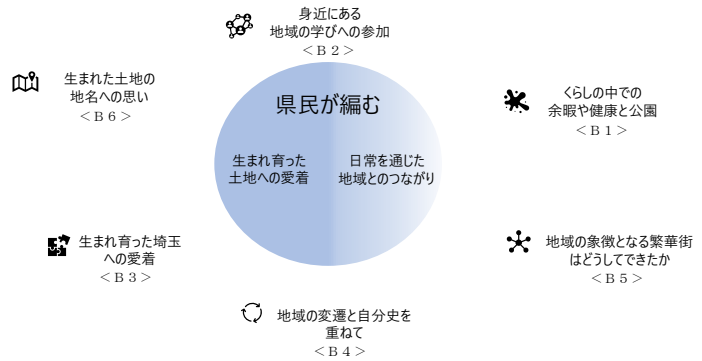


図1 「県民が編む」(それぞれの思い：愛着と日常)

2. 「つながる・ひろがる」展開の軸

私たちは「文化」・「活動」・「地理」という三つの展開軸で、神奈川のとつながりひろがりをお考えたい。

「文化」は地名の継承や変化、隣接する地域の中に共通点や違いといった過去からや外から見た時に見えてくるつながりとひろがりの軸である。

「活動」は、地域の自然や歴史を学ぶ場への参加、日々の余暇や健康づくりで公共空間を利用する当事者として“今、この時”におけるつながりとひろがりの軸である。

そして、「地理」は、生活や地域経済のつながりとひろがり具体的に作り上げる拠点や圏域という“場所”である。

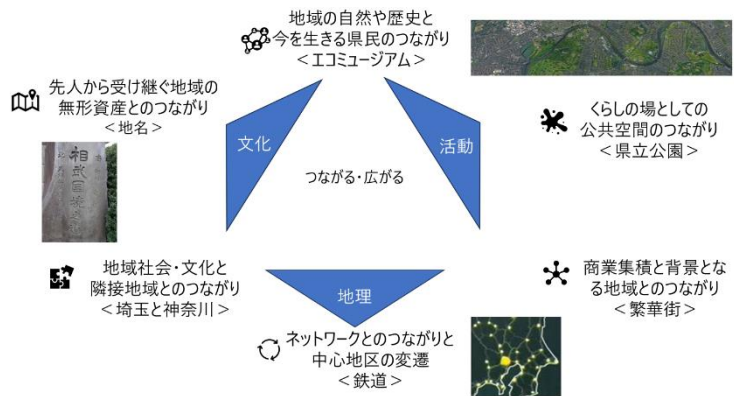


図2 「つながる・広がる」(展開の軸：文化・活動・地理)

それぞれの著者の思いや、論文の展開軸との関係は、図1、図2に示したとおりである。

(8月、9月のレジュメとチーム内で発表した内容もとにまとめたものです)

3. 論文の概要

- ① B 1 (神奈川の県立公園について) →くらしの場としての公共空間のつながり
 - 日頃利用する機会が多い公園について、その歴史や役割、実態など。主に暮らしとの関わりを中心に検証したい(保土ヶ谷公園と湘南海岸公園を中心に)。
- ② B 2 (エコミュージアムは、人と地域をつなぐ) →地域の自然や歴史と今を生きる県民のつながり
 - エコミュージアムとは、箱物ではない地域全体を生きた博物館と捉える。歴史遺産、自然環境、暮らしなどゆるく多岐に渡る「資源」を。平塚市、相模原市、茅ヶ崎市の事例から、課題とこれからの展望を探る。
- ③ B 3 (つながる広がるかながわ～神奈川県から埼玉県へ～) →地域社会・文化と隣接地域とのつながり
 - 神奈川の中の埼玉を探す どうつながっているのか? キーワード: 姉妹都市・鉄道の延伸・新札発行(渋沢栄一)、武蔵野線(府中本町駅から鶴見駅) 貨物線、氷川丸 氷川神社。神奈川区に残っているもの 貨物線 再開発 子安浜一屋形船・造船所 みなとみらいとの対比
- ④ B 4 (神奈川東部方面線の整備と「新横浜沿線圏域」の形成) →ネットワークとのつながりと中心地区の変遷
 - 神奈川区で生まれ親の持家取得により戸塚区へ。所帯を持って港北区へ戻るも泉区のマンションへ。ライフサイクルと共に遠ざかる「東横沿線と新幹線が向こうからやってきた」。
 - 横浜駅周辺、新横浜駅周辺それぞれの地区形成を、鉄道ネットワークの変化と鉄道会社の事業戦略などを軸にして考える。都心直通線の整備に伴う新しい沿線地域を展望
- ⑤ B 5 (繁華街の変遷について) →商業集積と背景となる地域とのつながり
 - 繁華街とは? 横浜市内の繁華街について、3つの地域を比較検討する(1 関内・伊勢佐木町地区 歴史・発展、2 横浜駅周辺地区 西口・東口それぞれの整備事業と展開、3 みなとみらい地区 MM21 開発事業 商業と娯楽)
- ⑥ B 6 (合併によって消えた故郷の名前) →先人から受け継ぐ地域の無形資産のつながり
 - 市町村の合併によって、跡形もなく消えた地名を記し残すことで、そこに住んでいた人たちの記憶を呼び起こすきっかけになることがある。何故、合併するのか、失敗はなかったか? これから合併される市町村は?